

Subject : **Japanese**Production of Courseware
e- Content for Post Graduate CoursesPaper No. 02 : **日本語学 (Japanese Linguistics)**Module 26 : **談話 (Discourse)**

Development Team

Principal Investigator:**Prof. Anita Khanna**

Jawaharlal Nehru University, New Delhi

Paper Coordinator:**Prof. Prashant Pardeshi**

The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)

Content Writer:**Prof. Emerita Yuriko Sunakawa**

University of Tsukuba

Content Reviewer:**Prof. Shingo Imai**


University of Tsukuba

Japanese

Japanese Linguistics

談話 (Discourse)

Description of Module	
Subject Name	Japanese
Paper Name	日本語学 (Japanese Linguistics)
Module Title	談話 (Discourse)
Module ID	JPN-P02-M26
Quadrant 1	E-Text

 **Pathshala**
पाठशाला
A Gateway to All Post Graduate Courses

Japanese

Japanese Linguistics

談話 (Discourse)

だんわ 談話

もくてき もくてき げんごうんよう そくめん
目的：このモジュールの目的は、コミュニケーションのための言語運用という側面から日本語の談話の構造と、談話によってコミュニケーションが達成されるプロセスを考察するさまざまなアプローチを紹介する。

だんわ なに 1. 談話とは何か

コミュニケーションのために運用された言語のことを「談話 (discourse)」と呼ぶ。

だんわ じっさい あらわ ご く だんべん みじか ぶんしょう こうえん なが
 談話の実際の現れは、語や句の断片といった短いものから、文章や講演といった長いものまでさまざまである。「危ない！」という叫びや、「危険」という1語の張り紙であっても、長時間におよぶ演説であっても、コミュニケーションの役割を果たす言語であれば、サイズの大小を問わず談話の研究対象となる。Halliday & Hassan (1976) が述べているように、談話とは、話し言葉と書き言葉の別やサイズの大小を問わず、ひとまとまりのものとして運用された言語のことを指す。

だんわ ようご はな ことば げんてい か ことば ぶんしょう たいひてき
 なお、「談話」という用語を話し言葉に限定し、書き言葉である「文章」と対比的
 とら たちば はな ことば か ことば ふく がいねん だんわ
 に捉える立場があるが、ここでは話し言葉と書き言葉のどちらも含む概念として「談話」
 ようご もち
 という用語を用いることにする。

2. 談話分析の特徴

談話分析の特徴は、コミュニケーションのための自然な言語運用に注目し、談話としてのまとまりを支える言語形式の機能や談話の構造、ならびに談話によってコミュニケーションが達成されるプロセスを探求する点にある。そのためには、コミュニケーションを取り巻く文化や社会に関心を向けるのはもちろんのこと、その中で生活する個人々の知識や経験にも焦点を当て、そこで実際に使用された言語の事例を分析すること、すなわちコンテキストに依拠した言語運用というものを考えることが重要になってくる。また、観察の対象は、話し言葉、書き言葉、手話などの言語の範疇に留まらず、ジェスチャーや視線や声の調子といった言語以外の行動も含まれる。

3. 談話分析のアプローチ

日本語の談話分析は、いくつかの異なる理論的背景を持つ研究者により行われているため、さまざまなアプローチがあり、多様である。いくつか例を挙げるなら、一連の文章や会話の構造に着目し、勧誘、依頼、相談、課題解決などの会話の手続きと、その手続きを円滑に進めるためのストラテジー (strategy) を記述する研究 (ザトラウスキー 1993, 筒井 2012, etc.)、談話に首尾一貫性 (coherence) を持たせるさまざま

よういん だんわ けつそくせい にな げんごけいしき ちやくもく
 な要因や談話の**結束性** (cohesion) を担う言語形式に着目し、**コンテキスト** (context)

げんごけいしき かか かいめい けんきゆう こうだ
 と言語形式の関わりを**解明**しようとする研究 (メイナード 1997, 2004, 甲田 2001,

すなかわ いおり しゃかいげんごがくてき かんてん だんわ
 砂川 2005, 庵 2007, etc.) , 社会言語学的な観点から **ポライトネス** (politeness) と談話

かか ぶんせき けんきゆう みまき きょうしつだんわ めんだんちようさ
 の関わりを**分析**する研究 (Usami 2003, 三牧 2013, etc.) , 教室談話や面談調査など

せいどてき だんわ ぶんせき けんきゆう さくまへん くまがい きたに
制度的な談話 (institutional discourse) を**分析**する研究 (佐久間編 2010, 熊谷・木谷

ぶん はつわ たんい そうごこうい かんれん けんとう ひりゆう
 2010, etc.) , 文と発話という単位を**相互行為** (interaction) との関連で検討し、非流

せい はかくぶん しゅうへんてきげんしょう ふく ぶんせき けんきゆう くしだ さだのぶ でんへん
 ちょう性や破格文など**周辺の現象**も含めて**分析**する研究 (串田・定延・伝編 2005,

2007, 2008, etc.) などがあ

4. 書き言葉の談話分析

か ことば だんわぶんせき はな ことば くら
 書き言葉には手紙, 論文, 小説などいろいろなジャンルがあるが、話し言葉に比べ

おお じかん けいかく すいこう かさ かのう
 れば、より多くの時間をかけて計画し、推敲を重ねることも可能である。そのため、

だんわ はな ことば めいりよう こうぞう はな ことば ととの
 談話としてのまとまりは話し言葉よりも明瞭で、その構造は話し言葉よりも整っ

おお か ことば だんわぶんせき じゅうよう どうにゆう
 ることが多い。書き言葉の談話分析では、重要なトピックがどこで導入され、どのよ

い じ べつ うつ か だんわ てんかい
 うに維持され、どこでどのように別のトピックに移り変わったかなど、談話の展開プロ

だんわ こうぞう ぶんせき けんきゆう だんわ けつそくせい にな けいしき ぶんせき さか おこな
 セスや談話の構造を**分析**する研究や談話の**結束性**を担う形式の**分析**が盛んに行われて

いる。

けっそくせい にな けいしき ぜんご ぶんみやく い み むす ぶんぼうけいしき ご い
 結束性を担う形式とは前後の文脈に意味の結びつきをもたらす文法形式や語彙のこ

さ じょし しゅだい ていじ しじたいしょう く かえ しじし るいぎご
 とを指し、助詞の「は」による主題の提示、指示対象の繰り返し、指示詞、類義語、

かんれんご しじ しょうりやく あ たと つぎ ぶんしょう み
 関連語などによる指示、省略などが挙げられる。例えば、次の文章を見てみよう。

むかし むら ちか なかやま ところ
 昔は、わたしたちの村の近くの中山という所に、ちいさなおしろがあって、

なかやまさま さま なかやま すこ やま なか
 中山様というおとの様がおられたそうです。その中山から少しはなれた山の中に「ご

んぎつね」というきつねがいました。ごんは、ひとりぼっちのこ小ぎつねで、しだのい

っぱいしげった森の中に、あなをほってす住んでいました。そして、(φ)よる ひる夜でも昼で

あた むら でも、辺りの村へ出てきて、いたずらばかりしました。

しゅじんこう ふた め ぶん はじ どうにゆう ぶんしょう い か
 主人公の「ごんぎつね」は、二つ目の文で始めて導入されるが、この文章では以下の

かたち しじ
 形で指示されている。

かいめ
 1回目：「ごんぎつね」というきつね

かいめ
 2回目：ごん

かいめ
 3回目：(φ)

かいめ さ しめ ひょうげん しょうりやく あらわ
 3回目の(φ)は、「ごんぎつね」を指し示す表現が省略されていることを表して

しじ しかた しゅうしょくく ふく めいしく
 いる。このように、「ごんぎつね」の指示の仕方は、「修飾句を含む名詞句」→

「名詞」→「省略」と、回が進むにつれてより小さな形式に移行していることが分かる。これは、指示対象が読み手の知らない情報なのか、すでに知っている情報なのかという情報の新旧と、新旧の度合いによって使い分けられているのである。すなわち、聞き手の知らない情報として初めて述べる時は「修飾句を含む名詞句」、2回目の言及で聞き手がその指示対象にアクセスしやすくなったときは修飾句のない「名詞」、3回目で、言及しなくてもその指示対象であることが十分に分かる時は「省略」が用いられているのである。

また、助詞に関しては、1回目では「が」（「ごんぎつねが」というぎつねが）、2回目では「は」（ごんは）が用いられている。指示対象のことを知らない読み手にはじめて提示する時は「が」、読み手がアクセスできる指示対象に言及する時は「は」が用いられているということで、「は」と「が」という助詞の使い分けについても情報の新旧が関わっていることが分かる。

5. 話し言葉の談話分析

話し言葉にも講演、スピーチ、おしゃべりなど、いろいろあるが、おしゃべりのような会話は即興的に行われる言語運用である。そのため、会話の参加者は、談話が

進行するのと同時に相手の発話やしぐさや表情などをモニターし、その内容に合わせ
て自分の発話を計画し、産出することが求められる。したがって、参加者の言語行動
や非言語行動を詳細に観察すれば、発話の産出に至るまでのプロセスが把握できるこ
とになる。会話の談話分析は、参加者同士の相互行為の中で彼らがどのように互いの発
話やそれに伴う言語行動をモニターし、解釈し、自分の発話の計画に役立てているか、
そのプロセスを記述することにより、相互行為のメカニズムや認知のメカニズムを解明
するのに有力な方法となるのである。

6. 会話分析

談話分析のアプローチのひとつに「**会話分析 (conversation analysis)**」と呼ばれる分
野がある。この分野は社会学の潮流のひとつである**エスノメソドロジー**
(ethnomethodology) から進展し、コミュニケーションにおける社会的相互行為に
着目して会話を分析するものである。このアプローチによって、一見無秩序に見える
おしゃべり会話でも、一定のルールに従って運営されていることが明らかになった。
例えば、会話では、次のように、一人の人が話しているときに別の人が話を割り込ま
せることがしばしば起こる。 [の記号は上と下の発話が同時に行われたことを示す。

A) A: うーん [この子は病気がすごくある。
B: うーん

B) C: 知つとる [まえ行った
D: 知つちよる? 広島ひろしまのね, 宮島みやじまって知つちよる?

このような同時発話はどこでも起こるというわけではなく、相手が「うーん」や「知つとる」と言い終わる頃、つまり、ターン (turn) の移行が適切であると見なされる箇所で行われている。そうでない箇所での割り込みが起こらないわけではないが、通常は1回のターンで1人の人が話すというルールが守られている。

このような話者交替 (turn-taking) に関する研究は、会話の構造を明らかにするものとして重要な課題である。会話の構造面の研究では、隣接ペア (adjacency pair) の研究も重要な課題である。隣接ペアというのは、「質問」に対する「応答」、 「招待」に対する「受諾」や「断り」のように、1番目のターンと2番目のターンとによって構成されるもので、発話のやりとりの最小単位と見なされている。

その他にも、言いよどみ、談話標識 (discourse marker)、あいづち、修復 (repair) などの分析が行われ、会話参加者がコミュニケーションを達成させるために行うさま

でつづき そうごこうい ちつじょ すす しゃかいてき きそく ぶんせき
さまざまな手続きや、相互行為を秩序だてて進めるための社会的な規則についての分析が
おこな
行われている。

キーワード：

だんわ げんごうんよう はな ことば か ことば ぶんしょう きのう こうぞう
談話 コミュニケーション 言語運用 話し言葉 書き言葉 文章 機能 構造

プロセス ストラテジー しゅびいっかんせい けつそくせい コンテキスト ポライトネス
プロセス ストラテジー 首尾一貫性 結束性 コンテキスト ポライトネス

せいどてき だんわ そうごこうい じょうほう しんきゅう かいわぶんせき どうじはつわ わしゃこうたい りんせつ
制度的な談話 相互行為 情報の新旧 会話分析 同時発話 話者交替 隣接ペア
